



# 学内広報

No.1317

2005.7.13  
東京大学広報委員会



コミュニケーションセンター (13・15ページに関連記事)

## CONTENTS

特別記事 .....	2	り籠・世界遺産遺跡出土の人類化石の意義について」を開催	
アクション・プラン2005-2008 時代の先頭に立つ			
大学—世界の知の頂点を目指して—			
一般ニュース .....	9	事務連絡 人事異動 .....	17
名誉教授の称号授与、調理者研修会開催される		掲示板 .....	17
キャンパスニュース .....	11	「教養学部報」第485（7月6日）号の発行、広報	
「キャンパス間返却サービス」開始		センター臨時休館のお知らせ、第4回国際シンポジ	
部局ニュース .....	12	ウム「基礎学カ—政策課題と教育改革」開催、音	
法学政治学研究科と公共政策学教育部共催による		楽部管弦楽団サマーコンサート2005開催のお知らせ、	
外国人留学生懇談会を開催、人文社会系研究科・		常設展「よみがえる幕末明治の人々」開催の	
文学部で外国人留学生等との懇親会開催、総合研		お知らせ	
究棟18号館竣工並びに教養教育開発機構設置披露		EVENT INFO .....	19
記念式典を開催、教育学研究科外国人留学生懇談		淡青評論 視箱からコンピューターへ .....	20
会行われる、附属中等教育学校軟式野球部が二季		コラム	
連続関東大会出場！、特別公開講演会「人類の進		宇宙飛行士野口聡一さんの無事と活躍を応援します	
化：南アフリカ、ヨハネスブルグ近郊、人類の揺		岩間第二小学校の皆さんようこそ東大牧場へ	
		コミュニケーションセンターだより	

アクション・プラン 2005-2008

# 時代の先頭に立つ大学

—世界の知の頂点を目指して—

## アクション・プラン 2005-2008 の公表にあたって

このアクション・プランは、総長としての私の任期中に、「時代の先頭に立ち、世界の知の頂点を目指す東京大学」を築き上げていくという目標を実現するための鍵になると考える項目を、私のいわば決意表明としてまとめたものです。その内容は、東京大学憲章が目指す方向、あるいは東京大学の中期目標や中期計画に掲げられた諸課題を踏まえながら、とくに経営戦略上重視したいと考える諸項目となっています。これらの諸項目について、東京大学が中期目標や中期計画で掲げているその他の具体的諸課題の実現と密接に関連させつつ、実現を目指していく所存です。



東京大学総長

小宮山宏

ここに掲げられた諸項目は、これですべて完結したという性格のものではありません。今後、東京大学を取り巻く状況の変化や大学内外からのご指摘等を受け止めながら、修正や追加など内容の進化を柔軟に遂げていくことを意図しています。

アクション・プランでは、わが国の大学制度の歴史的転換点において、東京大学が時代にふさわしい姿へと歩もうとする道筋を、具体策をもって示しています。その歩みを着実に進めるためには、まず東京大学の構成員全員が責任をもって協働することが前提であり、このプランにはそれを促すメッセージを込めました。それとともに、ここで、日本の未来を担う人材を育成する高等教育への投資を、国が率先して拡充し、また、社会の幅広い人々に支えていただくことの重要性を訴えておきたいと思えます。高等教育の果たす役割は、大学が高度な知をたえず豊かに発信し、社会が求める有為な人材を輩出し続けることにより、実感をもって認識いただけるものと思えます。社会に支持される大学であり続けるために、東京大学がその良き伝統を堅持しつつ、同時に大胆に改革を実行していくということが、このアクション・プランに込めた、いま一つのメッセージであり、決意でもあります。

### ご意見をお寄せください

アクション・プラン公表にあたっての総長声明に述べられているように、このプランの内容については、今後、学内外からのご意見をいただきながら、順次よりよいものに充実させていきたいと考えています。「学内広報」の読者の皆様方からもぜひ、このプランに対するご意見をメールでお寄せいただければと思います。宛先は、[hisho@m1.adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:hisho@m1.adm.u-tokyo.ac.jp) (総長秘書室) です。ご意見への対応については、まとめて「学内広報」の記事の形で掲載することを予定しており、原則として個別にお返事は差し上げませんのでご了承下さい。なお、記事掲載の場合に、ご意見をいただいた方のお名前を表示することはありません。

人類社会がかつてないスピードで変化している中で、新たな知の創造と活用による知の復権をはかり、それを担う人材を陸続と輩出する機関としての大学への期待は大きい。

このような状況のもとで、大学は世界規模での熾烈な競争にさらされ、急速に変わることが求められ、変わることができなければ確実に衰退する。すでに、世界有数の総合大学として認知されている東京大学も例外ではない。東京大学は、この時代の要請を好機と捉え、21世紀の世界人類をリードする総合大学となることを目指していく。それは、東京大学を、世界の最優秀の若者が集い育まれ、トップの研究者が新たな知を創造し、切磋琢磨しながら互いに高め合い、そして、生み出された知を人類共通の資産として社会に広め、活用を促す場にするのである。その実現には、先達が培ってきた力や伝統を基盤としつつ、速やかにかつ持続的に自らを変えて行かねばならない。「自律分散協調系」と「知の構造化」をキーワードとし、東京大学の全ての構成員が生き活きと主体的にその共同作業に取り組むための環境を整えていく必要がある。

基軸は、

- (1) 自律性の高い部局の連合体としてのポテンシャルを堅持し活用するための基盤強化
- (2) そのための全学協調の仕組みの確立
- (3) 新しい知の創造、学術と社会の交差を触発するための知の構造化の推進

である。このもとに、東京大学における教育、研究、国際的活動や社会連携を、東京大学の多彩で優れた人材の豊かさを生かしつつ一層強化する。これを進めるために、財務を強化し、キャンパス環境の整備を図り、さらに組織運営の改革を行う。これによって、機動力のある中枢、穏やかな分権、柔軟なインターフェイスという3つの仕組みを軸とした、社会から信頼され活力のある21世紀の大学モデルが確立されることになる。こうした大学のあるべき姿を自ら実践するとともに、わが国の高等教育ビジョンとして社会に提言していく。

このような目標に向け、小宮山総長の4年間の任期中に取り組もうとしている課題について、教育、研究、国際的活動、組織運営、財務、キャンパス環境、情報発信と社会連携という柱ごとに、以下のとおりまとめた。



# アクション・プラン 2005-2008

## I 教育

- ・ 世界最高の人材育成の場を提供
- ・ 本質を捉える知、他者を感じる力、先頭に立つ勇気を備えた人材の育成
- ・ 21世紀の地球人としての教養を身につけた品格のある人材の育成

### I-1 教養教育の強化

- ー学術俯瞰講義の開始
- ー学術統合化プロジェクトの成果の教養教育への還元など、先端的研究と学部前期課程基礎教育の創造的連携の推進
- ー基礎学力の強化と学志の向上をめざす平成18年度新カリキュラム実施への全学的支援、生命科学機構(仮称)による教養教育支援、全学体験ゼミナールの全学的支援
- ー教養教育開発機構の強化と東京大学の教養教育モデルの世界的発信
- ー東大に入ってよかったと新生が感ずる駒場キャンパス学生用施設の整備

### I-2 知の構造化と融合領域の教育体制の創成

- ー知の構造化を体現した構造化カリキュラムを実現
  - ・ 「東京大学授業カタログ」に検索機能を搭載してweb上で公開
  - ・ UTOCW事業の推進による知の公開及びカリキュラムの構造化とその可視化の推進、情報通信技術を活用した教育環境の整備の推進
- ー大学院教育の抜本的充実
  - ・ 大学院修士課程カリキュラムの整備と構造化の推進
  - ・ 課程博士授与率の抜本的向上など博士課程教育の充実
  - ・ 博士課程修了者の社会進出支援
- ー学生の質の保証(成績・卒業認定の厳正化、学業優秀者表彰など)
- ー融合領域の教育体制創成とメジャー・マイナー制の導入
  - ・ 学部レベルでは経済学部金融学科構想、理学部生物情報学科構想、メディアコンテンツ学科構想などを検討
  - ・ サステナビリティ学連携研究機構、生命科学機構(仮称)、ASNET等の学部学科横断型組織の学部・大学院教育への参入
  - ・ 大学院レベルでの医工連携などの推進
- ー起業を目指す学生・研究者の育成のための東京大学アントレプレナー道場の実施
- ー従来部局ごとに積算されてきた学生定員について全学的な管理政策を検討

### I-3 連携型教育の積極的展開

- ー環境・エネルギー問題等の課題に取り組むための文理融合教育研究方法论の徹底的追求と組織整備
- ー人材育成・人材交流等多様な産学連携モデルの構築
- ー海外分校の可能性の検討も含めたグローバルな人材養成の展開

### I-4 「人間教育」とキャンパスライフの充実

- ー「人間教育」と学生の社会性の向上という視点をもった、学生の学習支援・メンタルケア・キャリアサポート体制の抜本的強化(学生支援センター構想)
- ーインターンシップの充実、人間教育のために社会へ協力要請
- ー学生の声を受け止め、不安に機敏に対処するシステムの形成、〇〇キャンパス SOS システム、成績評価に対する異議申立や指導教員変更希望などに対処するシステムの整備

### I-5 高度職業人教育・社会人向け教育の推進

- ー一般の大学院における職業人教育の見直しを行うとともに、専門職大学院、社会人を対象とした「エクゼクティブ教育プログラム」における高度職業人教育を推進
- ーITを活用した自己学習支援

### I-6 世界の東京大学にふさわしい学生の獲得

- ー優秀な学生の積極的獲得への着手
- ー進学振り分け制度の改善、学部後期課程へのガイダンス強化
- ー大学院生、とくに博士課程院生への奨学・奨励制度の抜本的充実
- ー全世界、とくにアジアからの優秀な留学生の獲得と、そのための戦略的構築・奨学金制度の充実、東大からの派遣留学制度の充実
- ーこれらの実現のための積極的な情報発信

## Ⅱ 研究

- ・ 新たな知の創造と活用による知の復権
- ・ 自律・分散による知の創造
- ・ 協調による知の構造化と学術の統合
- ・ 社会との交流：地球社会が抱える重要課題の解決策やその選択肢の提示

### Ⅱ-1 自律的・自発的研究の支援

- －外部資金の有効活用によるボトムアップの研究の推進
- －一部局が持っている概算要求関連のアイデア等について、その実現化を支援（文部科学省への要求、学内措置、社会からの支援獲得など）
- －基盤的学術図書の安定的確保

### Ⅱ-2 全学的新機軸研究へのチャレンジを総長室が牽引

- －知の構造化を促進
  - ・ サステナビリティ学連携研究機構
  - ・ Alliance for Global Sustainability
  - ・ 生命科学機構（仮称）
- －フロンティア領域の推進
  - ・ 総括プロジェクト機構の充実
  - ・ 学術統合化プロジェクト（ヒト、モノ、地球、宇宙）の推進と新規領域の開拓
- －これらのプロジェクトの実施により柏キャンパスを活性化

### Ⅱ-3 近年実施した新機軸のレビューと将来計画の再構築

- －大学院重点化、情報研究教育体制、柏キャンパス、駒場第二キャンパス

### Ⅱ-4 東大基金を活用した若手研究者の支援

- －優秀な若手研究者の研究体制の充実
- －博士研究員の待遇の改善

### Ⅱ-5 附置研究所・センターにおける国際競争力ある研究等の推進

- －研究とサービスのミッションの整理を含むセンター機能の高度化
- －附置研究所・センターにおける研究教育活動の推進

### Ⅱ-6 交流と連携による新しいモデルへの挑戦

- －未来社会や国際社会への貢献を意識した新たなアジェンダセッティング、「政策ビジョン研究センター」（仮称）や学際的・国際的な研究体制による政策提言を検討
- －ネットワーク型研究組織の活用
- －世界トップの大学及び研究機関との連携・交流



## アクション・プラン 2005-2008

### Ⅲ 国際的活動

- ・ 地球持続・人類生存に関わる課題への取り組み
- ・ 世界トップレベルの大学との交流による切磋琢磨
- ・ 世界の学術において名誉ある地位を獲得

#### Ⅲ-1 部局との連携及び国際連携本部による海外活動の充実と本学の国際的プレゼンスの向上

- ー世界トップクラスの大学・研究機関との連携と海外拠点の増強
- ー海外分校設置の検討
- ーアジアの信頼獲得のための人的ネットワーク強化
- ー戦略的な国際交流ネットワークの構築と、そのための国際戦略ライブラリの作成・国際化推進長期構想の策定

#### Ⅲ-2 世界トップクラスの大学・研究機関との学生・研究者交流

- ー外国人研究者滞在用住居（インターナショナル・ハウス）の整備・外国語資料の充実など、留学生や外国人研究者の交流のインセンティブを高める環境の整備

#### Ⅲ-3 柏国際キャンパスの構築に向けた取り組み

- ー世界トップクラスの研究施設整備
- ー外国人研究者・留学生のための宿舎の整備、地域と連携した生活支援体制の構築などキャンパスの国際化推進のための環境整備

### Ⅳ 組織運営

- ・ 自律分散協調による新しい大学のモデルを構築
- ・ 大学を支える現教職員の雇用確保と流動性の促進
- ・ 財務基盤を徹底的に強化
- ・ 業務改善による業務の効率化と質の向上

#### Ⅳ-1 現場サポートの強化:教育研究時間の確保

- ー協調系の発掘、協調系研究教育活動の支援、資金獲得支援等のための研究支援オフィスの構築
- ー部局パートナー（飛車角方式）の活用
- ー国際、産学連携等の機能別部局連携ネットワークの強化
- ー情報システムの強化に基づく教育研究情報の効率的な管理

#### Ⅳ-2 教育研究支援職員の育成

- ー教育研究支援のための職員の能力向上。職員の持つべき能力を示して、そこに向けたスキルアップとキャリア形成のモデルを提示
- ー事務職員等の教育研究支援部門の飛躍的強化を図るため、人事の改善、組織の見直し、業務の見直しを一体的に推進

#### Ⅳ-3 柔軟な組織試行による教育研究活性化の支援

- ー多様なスタイルの教育研究活動の支援（「認定組織」や「アフィリエイト（アジャнкт）組織」）

#### Ⅳ-4 評価による特別昇給・報償制度

- ー東京大学の強化に貢献した人々へ特別給与制度の検討
- ー東京大学の国際競争力を担保し、インセンティブを与えるような勤務環境の整備

#### IV-5 総長室の意思決定システムの高度化

- －総長補佐の少数精鋭化・意思決定支援の強化
- －理事の責任体制の明確化と連携強化
- －適切な情報開示による総長室の活動の透明化

#### IV-6 総長室と部局・教職員・学生との連携・コミュニケーションの強化

- －部局や教職員・学生との意見交換の機会の拡充（朝食会・web上の掲示板等の活用）
- －理事・幹部職員の「オフィス・アワー」の創設

#### IV-7 人事管理の自由度の拡大

- －人事制度ルールのモデル提示とオプション化
- －人事運用の包括化

#### IV-8 世界有数の総合大学にふさわしい病院の強化

- －総合大学と社会との接点としての病院機能の強化支援
- －病院財政基盤の強化
- －保健センターの機能強化を目指した組織的位置づけの検討

## V 財務

- ・ 多様および総合的な自律的教育研究を発展させる国立大学法人財務モデルの構築
- ・ 多様性の中から新しい学術の胎動を見いだして奔流化させるための財政基盤の構築
- ・ 多様な教育研究活動が連携して学術の総合性を発揮するための財政基盤の構築
- ・ リーディング・ユニバーシティに相応しい施設設備整備を行える財政基盤の構築

#### V-1 制度的制約の緩和に向けた努力

- －資金運用、資産活用、起債、長期借入、寄附税制、投資、費用省令などに関する規制緩和を要望
- －予算執行の自由度の拡大のための、政府調達、監査体制等の規制緩和を要望

#### V-2 多様性と総合性とを両立させる予算制度の構築

- －総長裁量経費あるいは部局長裁量経費を有効利用するためのルール構築
- －自律分散系への基礎的教育研究経費配分額を高く担保できる予算構造の構築
- －自律分散系の連携・協調を予算的にも促進・支援できる構造の構築
- －予算運用の可能な限りの柔軟化・包括化

#### V-3 調達の効率化など教育研究支援予算の執行体制の整備

- －東京大学のスケールメリットを生かした調達の効率化
- －光熱水費等のコストマネジメントの構築
- －効率化における部局メリットの明確化

#### V-4 基金(エンダウメント)の確立・発展

- －「基金」概念の明確化
- －目的型寄付の導入
- －「東大130」の遂行を通じて基金のコアを確立
- －大規模基金形成に向けての体制整備と活動の推進

#### V-5 外部資金の獲得支援

- －学内の教育研究プランの効率的聴取と整理（対応申請先など）の実行と、適切な相手へのアプローチ
- －本学の学術ビジョンに基づく総合的・統合的課題に関する教育研究プランの組織化・予算化あるいは外部への申請の実行
- －上記の機能を支援する研究支援オフィスの設置

## アクション・プラン 2005-2008

### VI キャンパス環境

- ・ 特徴のあるキャンパスに向けて三極構造構想の実現
- ・ 自律分散系と協調系とが共存できる施設整備・利用ルールの構築
- ・ リーディング・ユニバーシティに相応しい施設設備整備の実施
- ・ 豊かな学修・研究環境を保障するキャンパスの実現

#### VI-1 三極構造構想実現に向けて

- －三極構造構想に基づくキャンパス整備に関する財務的全体像の把握と整備手法の検討
- －本郷キャンパス：樹木等の保全と両立する機能充実（地下の利用）
- －駒場キャンパス：構内美化と施設整備の推進
- －柏キャンパス：国際キャンパス化、シンボルとなる世界トップクラスの研究施設の整備
- －三キャンパスの有機的連携
- －千葉県、柏市、文京区など地域との連携

#### VI-2 プロパティマネージメントの構築

- －国際化を視野に入れた、教育研究の活性化を保障する構内施設の運用
- －コストマネージメントの視点の導入

#### VI-3 研究研究スペースの利用の最適化

- －特任教員等を含めた新たな面積算定基準案の検討
- －学内スペースの利用状況に関する情報の共有
- －全学共通スペースの確保
- －図書収納庫や装置収納庫の設置
- －ニーズとアクティビティに応じた全学共通スペースの適正配分

#### VI-4 サステナビリティに配慮した安全で快適なキャンパスの整備

- －エコ・キャンパス、犯罪に強いキャンパス、バリアフリーなキャンパス
- －研究成果を活用した知的プロムナード整備
- －耐災害性を備えたキャンパスの整備
- －高クオリティな厚生施設の整備

#### VI-5 情報システムの整備

- －CIOを任命
- －一部局の既存システムに配慮しつつ将来を見据えた情報環境を整備
- －電子化情報資産の全学的充実とその活用により情報発信力強化

### VII 情報発信と社会連携

- ・ 「知の構造化」を反映した東大の魅力を、社会連携や多様なメディアを通じて発信
- ・ 世界を視野に入れた21世紀大学モデルの立案とその発信
- ・ 学内コミュニケーションの活性化による、自律分散協調系の基盤形成支援
- ・ 卒業生との交流を通じた大学の活性化

#### VII-1 研究成果・教育内容の積極的発信

- －「淡青」・ホームページの外部発信力強化のための整備と目的に応じた内容調整
- －「政策ビジョン研究センター」（仮称）等も活用した、学術情報の効果的発信
- －世界トップレベルの研究者・教育者との知のネットワークを構築し、学問的・社会的な諸課題に対する取組みや成果を世界に向けて発信



# アクション・プラン 2005-2008

## VII-2 世界を視野に入れた21世紀大学モデルを立案・発信

- 21世紀の大学モデル立案に関する総合的調査・分析とデータ蓄積・活用を行い、社会へも積極的に公開
- 国立大学法人を充実・発展させるための制度改革案や財政面の改善提案を、高等教育ビジョンを踏まえつつ提示し、その実現のために各界へ積極的な働き掛け
- 総長主催の朝食会等を活用した内外コミュニケーションの充実により、大学モデル立案能力や発信能力を強化

## VII-3 学内コミュニケーションの活性化

- 「学内広報」の内容や流通方法の見直し、改善による、基本情報や問題意識の共有、異なる学問分野への知的関心の越境の促進
- 学内用ホームページの改善による、学内情報の共有化、利便性の向上

## VII-4 社会連携の推進と卒業生との交流

- 「知の構造化」を具現化する社会連携として諸プロジェクトを推進し、それらの事例をブランディングに活用
- 卒業生のネットワーク化・東大の応援グループ（東大校友会、「東大130」後援会、ホームカミングディ等）の育成による、大学と卒業生の実効性ある連携強化
- 卒業生と学生との交流の場の形成による相互コミュニケーション・学生の視野拡大（世代間の知の継承）

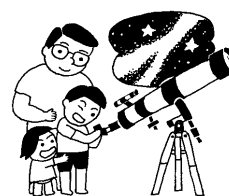


## 一般ニュース

### 人事部 名誉教授の称号授与

6月21日（火）に開かれた教育研究評議会で、東京大学名誉教授称号授与規則により、次の21名に名誉教授の称号を授与することになった。

部局	氏名	担当講座等
大・法	佐々木 毅	政治学史講座
医	豊岡 照彦	医学科
大・医	大塚柳太郎	国際生物医科学講座
大・医	久保木富房	生体防御腫瘍内科学講座
大・医	中原 一彦	病態診断医学講座
大・医	栗田 廣	健康科学講座
大・工	定方 正毅	環境プロセス工学講座
大・文	稲上 毅	社会学講座
大・文	青柳 正規	文化交流研究施設基礎理論部門
大・農	鈴木 和夫	森林生命環境科学講座
大・済	廣田 功	経済史講座
大・養	松本 忠夫	自然体系学講座
大・養	新田 春夫	言語情報解析講座
大・養	高村 忠明	言語態分析講座
大・養	工藤 庸子	ヨーロッパ・ロシア地域文化講座
大・育	藤田 英典	比較教育社会学講座
東 洋	猪口 孝	汎アジア研究部門
東 洋	柳澤 悠	南アジア研究部門
社 情	杉山 光信	情報・メディア部門
生 研	安井 至	人間・社会部門
核 研	野村 亨	核物理研究部



学生部

調理者研修会開催される

学生部では、例年、保健体育寮（スポーティア）および検見川総合運動場の夏季繁忙期を前に、調理・配膳業務の注意を促すために、各寮管理人および調理従事者が一同に会して「調理者研修会」を開催しており、今年度も6月16日（木）に検見川セミナーハウスにおいて実施されました。

研修会では、栗本孝子講師（管理栄養士、生活支援課厚生チーム）により、夏季の季節性を生かした献立の調理実習および講評ならびに調理者としての衛生管理、食材管理および調理企画等の講義を行い、各施設における問題点、対策、対応等について意見交換を行ないました。

皆様も、この夏は各保健体育寮や検見川総合運動場をご利用いただき、この研修会での成果を体感してみてください。

(問い合わせ)

学生部学生課体育チーム（御殿下記念館モール階）

TEL：03-5841-2510



調理実習風景



これからの学内広報発行スケジュール

号数	発行日	原稿締切	配布日
1318	7月27日（水）	7月20日（水）	8月2日（火）
<b>8月はお休みです</b>			
1319	9月14日（水）	9月7日（水）	9月21日（水）
1320	9月28日（水）	9月21日（水）	10月4日（火）
1321	10月12日（水）	10月5日（水）	10月19日（水）

噴水

宇宙飛行士 野口聡一さんの無事と活躍を応援します

航空宇宙工学専攻を卒業した野口聡一さんが搭乗するスペースシャトル・ディスカバリー打上げが、7月13日（水）に行われます（予定通り進めば、この号が配布される頃には野口さんは宇宙で活躍していることでしょう）。

航空宇宙工学専攻にとって、1997年にコロンビアで宇宙遊泳を果たした土井隆雄さんに続く2人目の卒業生が晴れ舞台へ登場します。Return to Flightと名づけられた今回のミッションでは、ISS建設のため、船外活動という重要な任務を野口聡一さんが果たすことになります。



土井さんには新調の青色の専攻旗を持参していただきました。野口さんは、東大の旗（神宮球場応援旗）を持参します。シャトルに搭載するには、広げるとき150cm×90cmというサイズ制限があるため、実物より小さめの特別誂え品です。

当専攻からは、出身研究室をはじめ、関係者が射場のあるフロリダまで応援見学に出かけます。皆さん、一緒に、無事で、楽しい、そして夢溢れる活躍を祈りながら、わくわくして見守ることでしょう。

専攻出身の宇宙飛行士としては、さらに、山崎（角野）直子さんが後に控えて訓練を続けています。彼女には何の品を持参してもらいましょうか、今から楽しみです。野口さんも再度のチャンスがあるはずです。

限りなき天空をめざして、航空宇宙工学専攻は、野口さんの無事と活躍を限りなく応援します。

(工学系研究科・航空宇宙工学専攻)

## 図書館「キャンパス間返却サービス」開始

### 借りた本を返すのが、便利になりました！

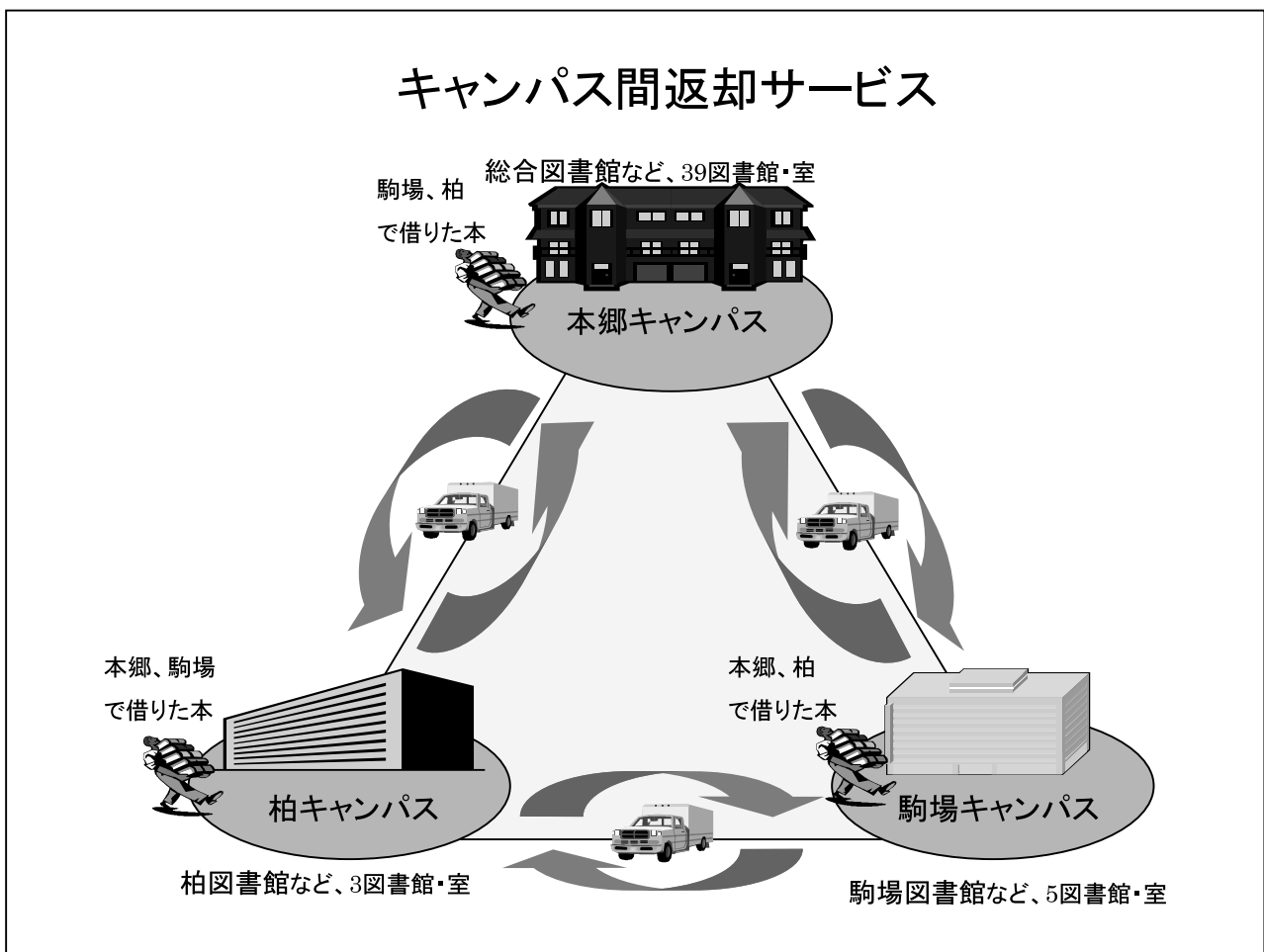
「いつも駒場キャンパスにいるから、総合図書館で借りた本を返しに行く時間がない」。そんなあなたの悩みは「キャンパス間返却サービス」が解決します。

今年4月から、キャンパス間返却サービスを始めました。これは、他のキャンパスの図書館・室から借りた本を、総合図書館、駒場図書館、柏図書館で返却できるサービスです。たとえば、駒場キャンパスの図書館・室で借りた本を総合図書館や柏図書館で返却したり、柏図書館で借りた本を総合図書館や駒場図書館で返却できます。また、自分の所属している部局の図書館・室でも、本の返却を受付けます（一部、対応していない図書室があります）。

このサービスを使って、他のキャンパスにある本も気軽にどんどんご利用ください。

サービスの詳しい内容は、図書館・室の窓口でお尋ねになるか、HPをご覧ください。

(HP) [http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/news/news/fuzokuto\\_05\\_06\\_30.html](http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/koho/news/news/fuzokuto_05_06_30.html)



大学院法学政治学研究科・法学部／大学院公共政策学教育部  
**法学政治学研究科と公共政策学教育部共催による外国人留学生懇談会を開催**

6月23日（木）17時半から、山上会館1階談話ホールにて法学政治学研究科と公共政策学教育部共催による外国人留学生等との懇談会が開かれた。

この催しは、留学生等と教職員が、相互の理解を深めることを目的として毎年6～7月に開催されている。今年も留学生センターの先生方を来賓としてお招きし、留学生、比較法政国際センター所属客員研究員、日本人学生チューター、教職員等、総勢107名が出席した。

岩原紳作教授（法学政治学研究科総合法政専攻長）の司会進行で、高橋宏志法学政治学研究科長の挨拶、森田朗公共政策学教育部長による乾杯の後、歓談に入った。

宴たけなわになった頃、留学生を代表して、法学政治学研究科修士課程1年生のシム・ビリャさん（カンボジア出身）が本学に入学した喜びを語った。次に、法学部4年生のリー・ヴェラさん（オーストラリア出身）が、オーストラリアと中国の歌を無伴奏で独唱し、会場は拍手喝采で沸き立った。

普段は研究活動に忙しい学生たちだが、この日ばかりは教員や友人と大いに親睦を深め、和やかな雰囲気の中19時半ごろ散会した。



公共政策学教育部の学生と教員との記念撮影

大学院人文社会系研究科・文学部  
**人文社会系研究科・文学部で外国人留学生等との懇親会開催**

6月8日（水）18時から、山上会館地下食堂において、人文社会系研究科・文学部主催の外国人留学生・研究員及び外国人スタッフとの懇親会が開催された。

懇親会には、人文社会系研究科及び文学部に在籍する19カ国の外国人留学生・研究員、留学生博士論文作成支援ボランティア・ネットワークである「三金会」の先生方、教職員など約110名が参加。まず高橋研究科長の挨拶があり、続いて服部国際交流委員会委員長の発声で乾杯したのち、懇談が始まった。

懇談は、終始和やかな雰囲気の中盛会に行われ、途中に「三金会」の先生を代表して、久野猛（元日比谷高等学校校長）氏から会の名称の由来や活動状況等を踏ま



日本舞踊を披露する  
 STADLER SABINEさん

えた留学生とのエピソードを中心に心温まるご挨拶があり、続いてスイスからの留学生STADLER SABINE（修士2年）さんによる日本舞踊（地唄舞）の披露があった。日本人でも関わるのが希な和の文化を見事に表現した舞に参加者から大歓声が沸き上がった。最後に留学生を代表して、韓国の李文淑（博士課程3年）さんが謝辞「初心を忘れない」

を述べ、参加者すべてに感銘をあたえた。

参加者は日ごろ会話をする暇もないほど学術研究に打ち込んでいるためか、友人との久しぶりの再会は尽きる事のない懇談の場となったが、20時に盛況のうちに閉会した。



参加者による記念撮影

## 大学院総合文化研究科・教養学部 総合研究棟18号館竣工並びに教養教育開発機構設置披露記念式典を開催

大学院総合文化研究科・教養学部では、6月13日(月)15時から、「大学院総合文化研究科総合研究棟18号館竣工並びに教養教育開発機構設置披露記念式典」を行った。

これは、駒場Iキャンパスに建設中であった総合研究棟18号館の新工事が竣工し、今後総合文化研究科・教養学部の教育・研究の場として整備される運びとなったこと、また、本年4月から全学の学部教育の充実に資することを目的として、教養学部附属教養教育開発機構が設置されたことを記念して催された。式典は、新たに完



挨拶をする小宮山総長

成した総合文化研究科総合研究棟18号館の1階ホールにおいて、木畑洋一総合文化研究科長の式辞の後、小宮山宏総長の挨拶に引き続き、来賓の方々から祝辞が述べられ、長坂潤一施設部長の工事概要報告の後、総合研究棟18号館の竣工に尽力された工事関係各社に感謝状の贈呈が行われた。

行われた。

本学から小宮山総長、西尾茂文、古田元夫両理事(副学長)、上杉道世理事及び関係教職員、また、蓮實重彦元総長、小島与志生文部科学省大学振興課課長補佐ほか関係者等、併せて約150名が出席して盛会に行われた。



テープカットを行う左から小島大学振興課課長補佐、小宮山総長、蓮實元総長、古田副学長、木畑大学院総合文化研究科長・教養学部長(18号館玄関前)

式典の後、小宮山総長、蓮實元総長等によるテープカットが行われ、総合研究棟18号館の館内(1階ホール、2階院生学習室、院生ラウンジ、3階スタジオ、サウンドラボ等)の施設見学を行った。

その後、駒場ファカルティハウスにおいて祝賀会が開かれ、古田理事(副学長)の挨拶の後、青柳正規独立行政法人国立美術館西洋美術館長、渡邊守章前放送大学副学長等の来賓の方々から祝辞が述べられた。



挨拶をする蓮實重彦元総長

## コミュニケーションセンターだより No.1-①

昨年11月に東京大学コミュニケーションセンターがオープンしてから早いもので半年が過ぎました。

「社会・世界との双方向的なコミュニケーションを拡大する」という考えに基づいて開設した施設ですが、実際には身近なところでもさまざまなコミュニケーションが生まれています。

→15ページに続く



The University of Tokyo

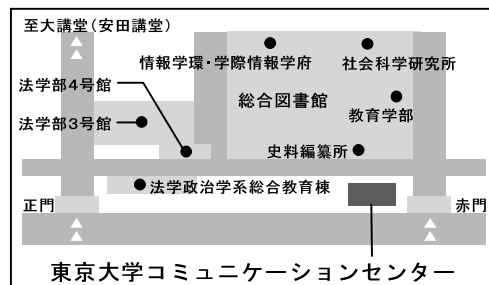
東京大学コミュニケーションセンター

The University of Tokyo  
Communication Center

OPEN: 月曜～土曜 10:30～18:30

電話: 03-5841-1039

[http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/utcc01_j.html)



大学院教育学研究科・教育学部  
教育学研究科外国人留学生懇談会行われる

5月18日（水）、教育学研究科外国人留学生懇談会が行われた。留学生、チューターを始め、教職員を含め70人ほどが集ったその会は、すこぶる盛況であった。佐藤学教育学研究科長は、留学生たちを心から歓迎するとエールを送り、金子元久副研究科長は、みんなの輪が広がることを期待すると、乾杯の挨拶をした。

留学生有志による手作りの水餃子は、さすがに本場の味であって、一同舌鼓を打った。その準備のために留学生達は午後一杯を費やすことになったが、日頃のストレスを発散させ、一番楽しんだのは、奔走してくれた彼ら自身だったのかもしれない。

懇談の後、新入生の自己紹介が行われた。日本に来て、一番美味しいと感じた食べ物は何か。・・・うめぼし。ご飯。ラーメン。駅弁。中には、日本に来て「キムチ」の美味しさを再確認した韓国からの留学生もいた。中国語を共有する留学生たちの合唱（「明天会更好（明日があるさ）」）も、実に見事であった。



留学生たちによる合唱

こうした会では、しばしば、知り合い同士が固まってしまう。それは避けたい。むしろ、知らない人と出会う機会にしたい。そんな思いから、参加者全員に数字カードを配って、簡単な数合わせのゲームを試みた。知らない人と「偶然に」出会ってしまうためのゲーム。これだけのことで、会場の空気は流れ出し、随分と賑やかになった。留学生たちはもとより、教職員たちも、こうした機会があると、普段は見せない笑顔を見せていた。次の懇談会では、もう少し手の込んだ「ゲーム」を用意してもよいかもしれないと思ったりした。

最後に、佐藤一子国際交流委員長がなごやかな挨拶で締めくくり、盛況のうちに閉会となった。留学生たちの「留学日記」には、どんな感想が記されたのだろうか。

大学院教育学研究科・教育学部  
附属中等教育学校軟式野球部が二期連続関東大会出場！

教育学部附属中等教育学校（後期課程）軟式野球部は、春季都大会に準優勝し、東京都代表として昨秋に続いて関東大会に出場を果たした。

秋の都大会優勝校ということで、春季大会は支部大会を免除され都大会にシードされた。初戦は都立豊島高校にコールド勝ち、2回戦の暁星高校には初回の大量得点を守って逃げ切った。関東大会をかけた準決勝の早稲田学院戦では、先制を許し相手の好投手攻略にてこずったがワンチャンスを生かして逆転勝ちをおさめ、関東大会出場を決めた。決勝戦は、強豪日大第三高校と対戦した。息詰まる投手戦となり両チームともバックが好守で盛り立てる1点勝負の試合となった。残念なことに、相手の4番バッターにタイムリーヒットを許し、0対1で惜敗し、秋春の連続優勝はならなかったが準優勝に輝いた。

6月3日（金）から群馬県桐生市で行なわれた関東大会では、1回戦は、埼玉県代表の浦和南高校に3対0の完封勝ちをおさめた。しかし、2回戦で前年度優勝校群馬県代表の前橋商業高校と戦い、8回表まで2対3と善戦したが、8回裏に大量点を許し準決勝進出の夢は果たせなかった。

(都大会)

1回戦	対	都立豊島高校	10-0
2回戦	対	暁星高校	7-3
準決勝	対	早稲田学院高校	3-2
決勝	対	日大第三高校	0-1

(関東大会)

1回戦	対	浦和南高校	3-0
2回戦	対	前橋商業高校	2-7



関東大会に進出した野球部員

## 総合研究博物館

### 特別公開講演会「人類の進化：南アフリカ、ヨハネスブルグ近郊、人類の揺り籠・世界遺産遺跡出土の人類化石の意義について」を開催

総合研究博物館では特に世界的に著名な研究者の来日に合わせて、特別公開講演会を開いています。6月9日(木)には、山上会館大会議室にて、南アフリカ共和国、ヴィットウォーターズランド大学名誉教授 P. V. トバイアス博士を迎え、同国在日グバネ大使ご臨席のもと、公開講演会「人類の進化：南アフリカ、ヨハネスブルグ近郊、人類の揺り籠・世界遺産遺跡出土の人類化石の意義について」を開きました。



トバイアス博士

トバイアス博士はオーストラロピテクス発見初期の1940年代から猿人化石の調査に関わっており、半世紀にわたり人類進化研究を南アフリカのみならず世界的にリードされ、さらにはアパルトヘイトとも戦ってきた実績の持ち主です。

講演会は、学内外から広くご来場いただくため夕刻18時から行い、同時通訳をつけたところ、100名以上の方々が来場(半数以上が学外からの参加)し盛会に終わりました。博士ご自身から、猿人の発見史について、南アフリカの世界遺産について、また博士ご自身の研究歴における最も印象深かった瞬間などについて、本学でお聞きすることができた有意義な講演会となりました。



講演会の様子

## コミュニケーションセンターだより No.1-②

### ■「父の日」に「御酒(うさき)」が売れる

東京大学の学生は、親を大切にする人たちが多いのでしょうか。6月2週の後半ごろに「御酒」の売上げが急激に伸びました。どうやら「父の日」に学生が父親へプレゼントとして購入していたようです(実家への郵送なども多数)。些細なことではありますが、「御酒」を通して親子の間でも東大の研究を話題とした会話があったとすればとてもすばらしいことだと思っています。



#### 御酒(うさき)

オリジナルボトルの生産体制も整いましたので、お中元や帰省みやげとしてもご利用いただけます。

### ■学生と先生のコミュニケーション

コミュニケーションセンターは、東京大学の学生たちの手によって支えられています。学生が「ネタ」を集め、商品を生み出しています。学生たちが自分の専門領域とは異なる研究室に向き先生方と商品化について相談をさせていただく。通常の学生生活では出会わなかったであろう先生方との出会いは学生にとって非常に大きな財産でしょう。

最近では、先生方から「これを商品化できないか」という売込みもいただくようになりました。

### ■コミュニケーションセンター発

次号からは、新商品トピックス、売れ筋情報、ショップをご利用いただいている人たちの声などコミュニケーションセンター発の情報を連載でお届けしていきたいと思えます。みなさんも是非、一度、コミュニケーションセンターへ足を運んでみてください。

### アイデア募集!

コミュニケーションセンターでは、新商品のアイデアを募集しております。商品だけでなく、ファサード(表紙写真参照)での研究成果の展示も可能ですのでお気軽にご相談ください。

連絡先: 渉外本部

E-mail: [soga@adm.u-tokyo.ac.jp](mailto:soga@adm.u-tokyo.ac.jp)

(担当: 渉外本部 曾我)



東京大学コミュニケーションセンター

The University of Tokyo

Communication Center

The University of Tokyo



## 岩間第二小学校の皆さん ようこそ東大牧場へ

6月9日(木)、茨城県岩間町立岩間第二小学校3年生20名と引率の先生1名が、総合的な見学学習で当牧場を訪れました。当日は曇り空でしたが、緑が青々と気持ちよい見学日とで、当牧場宿舎前の芝生で眞鍋教授の挨拶に引き続き、事前に質問事項を頂いておりましたので、それに答える形で李助手の案内でスタートしました。



◀子どもたちに説明している眞鍋教授

当牧場では、牛、馬、豚、羊及び山羊の飼養管理などを通して教育並びに研究を行っており、当日はそれぞれの現場担当者に説明をお願いしたので、その様子を紹介します。併せて、後日一人一人真心こもったご丁寧なお礼状を頂きましたので、ピックアップし紹介します。

『牛の種類がわかった。』『黒い牛は、肉にされたり実験に使われたりかわいそう、でも仕方ない。』『白・黒の牛は、ミルクが出ることがわかった。』『慣れたら触りたい。』

『馬は、体が大きい。』『体に触れ、鼻も気持ちよかった。』『かっこよかった。』『餌をあげて楽しかった。』『馬の赤ちゃんは何日で走るの!』の問いに、産まれて1時間前後で走ると聞かされ、ビックリしていました。



◀馬場での見学の様子

『豚は、清潔好きだ。』『けんかもする。』触れないのが残念そうでした。見学中に、交尾なのか、「何をしているの!」の問いに現場担当者は戸惑った様子でした。

『羊に近寄ると逃げてしまう。』『臆病だとわかった。』『ここで飼育されている羊は、毛が抜けることもわかった。』

『山羊は、雄雌とも角がある。』『角には血管が通っている』の説明に、角が折れると、血が出るのがわかり、「かわいそう」と同情するとともに、新たな知識に満悦。慣れない手つきで、ほぼ全員が仔山羊を抱っこし、時間を忘れ戯れている様子が印象的でした。

「動物は何年生きるの!」、「なぜ飼育しているの!」などの問いに、実習や研究の立場から答える方も説明に苦慮している様子で、傍らで話を聞いていた私も複雑な気持ちでした。

最後に、当牧場自慢の生乳を試飲して頂き、みなおいしそうに飲み干していました。礼状には『とってもおいしかった』と共に『お仕事がんばってください』の言葉が添えられていました。

子どもたちが、このように身近に動物たちと触れあうことにより、気持ちを和ませ、動物に対する優しさ、日常生活で関わる動物の存在など、体験ならではの学習を通し、健全な育成の一助を担うことも、当牧場の目的の一つかと思われま。

是非、次回の来場お待ちしております。

(農学生命科学研究科附属牧場 金澤主査)



## 「噴水」のコーナーにご意見を!!

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただくコーナーとして「噴水」が設けられています。本学における教育・研究活動等に関する意見等をお寄せください。広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

[原稿の送付先] 東京大学総務部広報課 MAIL: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

[お問い合わせ] TEL: 03-3811-3393 内線: 22031, 82032



大学院総合文化研究科・教養学部

「教養学部報」第485(7月6日)号の発行

——教員による、学生のための学内新聞——

## お知らせ

「教養学部報」は、年間9回発行です。教養学部の正門傍、掲示板前、学際交流棟ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

田中 純：死者の追悼と都市

——ベルリンと東京の事例から

跡見順子：身体的に学問を誘起する「場」の構築～第12

回身体運動科学シンポジウム「21世紀を支え

る科学・技術と身体」からの共創～

菅原克也：追悼 大澤吉博先生

<本郷各学部案内2>

佐藤 学：教育学部・教育が未来の社会を開く

岩澤康裕：理学部・理学部への進学を考える皆さんへ

丹下 健：農学部・農学教育を支える附属施設

岩坪 威：薬学部・薬学部——生命科学の総合拠点また

は研究の虫たちの巣窟——への招待

柴田寿子：<本の棚>宮本久雄・山脇直司編『公共哲学

叢書8 公共哲学の古典と将来』古典研究の

新しい協働性を開く

大江 博：<時に沿って>外務省から東大へ

箭内 匡：<時に沿って>学問と健忘

## 事 務 連 絡

### 人事異動（教員）

発令年月日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（退 職）			
17.6.30	桐野高明	辞 職（国立国際医療センター研究所長）	大学院医学系研究科教授
//	真船健一	辞 職	大学院医学系研究科助教授
//	尹 浩信	辞 職（熊本大学大学院医学薬学研究部教授）	大学院医学系研究科助教授
//	菅澤 正	辞 職	大学院医学系研究科助教授
//	菊地和也	辞 職（大阪大学大学院工学系研究科教授）	大学院薬学系研究科助教授
（採 用）			
17.6.16	宮川 清	大学院医学系研究科附属疾患生命工学センター教授	広島大学原爆放射線医科学研究所ゲノム障害制御研究部門教授
17.7.1	大澤幸生	大学院工学系研究科助教授	筑波大学大学院ビジネス科学研究科助教授
//	川口 寧	医科学研究所附属感染症国際研究センター助教授	名古屋大学大学院医学系研究科助教授
//	佐々木 亨	生産技術研究所助教授	文部科学省研究振興局基礎基盤研究課課長補佐
（昇 任）			
17.6.16	藤井知行	大学院医学系研究科助教授	医学部講師
//	土橋 律	大学院工学系研究科教授	大学院工学系研究科助教授
//	上坂友洋	大学院理学系研究科附属原子核科学研究センター助教授	大学院理学系研究科附属原子核科学研究センター講師
17.7.1	樋口亮介	大学院法学政治学研究科助教授	大学院法学政治学研究科助手
//	黒川峰夫	大学院医学系研究科教授	医学部講師
//	北沢 猛	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院工学系研究科助教授
//	大島まり	生産技術研究所教授	生産技術研究所助教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

## 総務部 広報センター臨時休館のお知らせ

お知らせ

広報センターは、下記のとおり休館させていただきます。

平成17年8月8日(月)～12日(金)

## 大学院教育学研究科・教育学部 教育学研究科・基礎学力研究開発センター第 4回国際シンポジウム「基礎学力ー政策課題 と教育改革」開催

シンポジウム・講演会

大学院教育学研究科・基礎学力研究開発センター（21世紀COEプログラム）では、以下の要領で国際シンポジウム（同時通訳付・参加費無料）を開催いたします。どなたでも参加できます。多くの方のご来場をお待ちしております。

日時：7月23日（土）10:00～17:00

7月24日（日）10:00～16:00

会場：国連大学 エリザベス・ローズ会議場（青山）

報告者・パネリスト：

Prof. Reijo Laukkanen（国立教育研究所、フィンランド）

Prof. Linda Hammond（スタンフォード大学、米国）

Prof. Chong Jae Lee（韓国教育開発院、韓国）

Prof. John Gray（ケンブリッジ大学、英国）

金子 元久（教育学研究科教授）

佐藤 学（教育学研究科教授）

市川 伸一（教育学研究科教授）

南風原 朝和（教育学研究科教授）

秋田 喜代美（教育学研究科教授）

荻谷 剛彦（教育学研究科教授）

小川 正人（教育学研究科教授）

恒吉 僚子（教育学研究科助教授）

（問い合わせ・参加申し込み先）

大学院教育学研究科基礎学力研究開発センター

TEL：03-5841-1398、1399

FAX：03-5841-1400

E-mail：coe@p.u-tokyo.ac.jp

## 音楽部管弦楽団サマーコンサート2005開催 のお知らせ

お知らせ

東京大学音楽部管弦楽団は、以下の日程にてサマーコンサートを開催します。ご多忙の折とは存じますが、ぜひご来聴ください。

### 東京大学音楽部管弦楽団サマーコンサート2005

#### <神奈川公演>

公演日：7月18日（月・祝） ※終了しました

会場：ミューザ川崎シンフォニーホール

#### <東京公演>

公演日：7月23日（土）

会場：昭和女子大学人見記念講堂

時間：18:00開場、18:30開演

#### <尼崎公演>

公演日：8月1日（月）

会場：尼崎市総合文化センターアルカイクホール

時間：18:30開場、19:00開演

#### <福山公演>

公演日：8月3日（水）

会場：ふくやま芸術文化ホールリーデンローズ大ホール

時間：18:30開場、19:00開演

#### <大分公演>

公演日：8月4日（木）

会場：大分県立総合文化センターグランシアタ

時間：18:30開場、19:00開演

☆全席自由（神奈川は当日座席指定券引き換え）

指揮：三石 精一

曲目：ショスタコーヴィチ 交響曲第5番

モーツァルト 交響曲第35番「ハフナー」

ドヴォルザーク 「謝肉祭」序曲

#### 【チケット申込み方法】

氏名・住所・電話番号・ご希望の公演・枚数を、以下のいずれかの方法にてお知らせください（7月30日（土）必着）。学内広報をご覧になったお客様には、通常価格1000円のところ特別割引価格800円にて販売させていただきますので、その旨ご追記ください。

①MAIL：tokyo@todaiorch.cjb.net

②FAX：020-4665-6574

公演直前のお申込みは、恐れ入りますが下記までお電話ください。

TEL：090-1996-3037（多田野）

MAIL：tokyo@todaiorch.cjb.net

附属図書館

常設展「よみがえる幕末明治の人々」開催のお知らせ

お知らせ

常設展「よみがえる幕末明治の人々」

総合図書館では、南葵文庫（紀州徳川家所蔵本）や鴎外文庫等の所蔵資料から、幕末明治を彩る著名人に焦点をあて、彼ら自らが所蔵した資料を中心に常設展示会を

開催します。緒方洪庵、滝沢馬琴、式亭三馬、水野忠邦、木戸孝允、森鷗外等々、教科書にでてくる誰でも知っている人々の蔵書がずらりと展示されます。パンフレットも用意しました。

オープンキャンパスに集う高校生ほかどなたにも興味深くご覧いただけるものと思います。なお、今回の展示に際しましては、佐藤賢一電気通信大学助教授にご協力いただきました。

期間：7月～10月

場所：総合図書館3階ロビー ※9月に資料入替有り

# EVENT INFO

行事名	日時	場所	連絡先・HP等
17年度第2回定例研究会「現代インドネシア経済史を書くーその骨格と時代区分」	7月21日(木) 14:00～	東洋文化研究所3階大会議室	東洋文化研究所企画委員会 kenkyo@ioc.u-tokyo.ac.jp (研究協力係)
第6回創薬ビジョンシンポジウム「薬効・副作用発現およびそれらの個人差の解析・予測法」	7月21日(木)、 22日(金)	医学部鉄門記念講堂	創薬ビジョンシンポジウム事務局 03-5800-8717 http://bukai.pharm.or.jp/bukai_vision/sympo/6th/index.html
第1回研究所ネットワーク国際シンポジウム「ゲノムシステム医学ーBench to Bedsidesー」 ※学内広報1316号参照	7月22日(金) ～24日(日)	医科学研究所講堂及び医科病棟8階会議室	医科学研究所学術連携推進室 http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/Event/symposium050722-j.htm LOCUS@ims.u-tokyo.ac.jp
平成18年度美術史学研究室 大学院・学士入試説明会	7月23日(土) 13:00～	法文2号館1大教室	東京大学文学部美術史学研究室 03-5841-3800 http://www.l.u-tokyo.ac.jp/cgi-bin/report.cgi?mode=2&id=3
物性研究所研究会 「固体表面におけるナノサイエンス」	7月27日(水) ～29日(金)	27日：物性研究所大講義室28・ 29日：柏キャンパス図書館メディアホール	小森文夫(物性研ナノスケール物性研究部門) http://komori.issp.u-tokyo.ac.jp/Ken050727.htm
医科学研究所LOVE LABOー感染症の研究ってなんだろう?ー	8月3日(水) 13:00～	医科学研究所講堂	医科学研究所所長室内「感染症」公開セミナー事務局 03-5449-5254 http://www.ims.u-tokyo.ac.jp/imswww/Event/seminar050803.pdf
夏休み航空宇宙工学教室2005	8月3日(水)、 4日(木)	工学部8号館	工学部航空宇宙工学科 summer-school@sky.t.u-tokyo.ac.jp http://www.aerospace.t.u-tokyo.ac.jp/event/summerschool/index.html
地震研究所一般公開・公開講義 ※学内広報1315号参照	8月4日(木)	地震研究所、安田講堂等	地震研究所アウトリーチ推進室 03-5841-5643 http://www.eri.u-tokyo.ac.jp/KOHO/PANKO2005/index.html
東大病院 腎不全教室	9月3日(土) 13:00～	東大病院入院棟A15階大会議室	医学部付属病院腎臓内分泌内科事務室 磯部 03-3815-5411 http://www.h.u-tokyo.ac.jp/news/news.php?newsid=83
第22回理学系研究科技術シンポジウム	9月9日(金) 13:00～	理学部1号館西棟206号室	理学系研究科技術部シンポジウム実行委員会 03-3814-0294 http://park.itc.u-tokyo.ac.jp/s-tech/gisyinpo.htm
行事名	開催期間	場所	連絡先・HP等
国際協働プロジェクト「グローバル・スーク」展 ※学内広報1315号参照	5月27日(金) ～7月31日(日)	総合研究博物館小石川分館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
特別展示「『Systema naturae』～標本は語る～」展	6月4日(土) ～9月4日(日)	総合研究博物館旧館展示ホール	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
特別展示「東京大学コレクション XX：関野貞アジア踏査一平等院・法隆寺から高句麗古墳壁画へ」展 ※学内広報1316号参照	6月4日(土) ～9月4日(日)	総合研究博物館1階新館展示ホール	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
ヒューマン・イメージー先史時代の儀礼と人物像	6月4日(土) ～9月4日(日)	総合研究博物館	総合研究博物館 ハローダイヤル 03-5777-8600 http://www.um.u-tokyo.ac.jp
第31回生研公開講座イブニングセミナー 「安全で安心な都市の実現のために」	6月10日(金) ～7月29日(金)	駒場リサーチキャンパス総合研究実験棟3階大会議室	生産技術研究所広報企画係 03-5452-6017 http://www.iis.u-tokyo.ac.jp/
錯覚展ー心の働きにせまる不思議な世界ー	7月16日(土) ～9月18日(日)	駒場博物館(1階美術博物館展示室)	総合文化研究所・教養学部美術博物館 03-5454-6139 http://tdgl.c.u-tokyo.ac.jp/~bihaku/2005.htm#illusion

## 硯箱からコンピューターへ

朝、出勤したら、まず何より先に自分の机の上にある硯箱の蓋を開けて、墨を磨るように。そして、席を外すときに埃が入るのが厭だったら、蓋をななめに少しずつ被せておくこと。蓋をきちんと閉めるのは退出するときだけにするように。

こんな習慣を先輩から聞かされたことがある。本所の業務は、書庫に入って調べものをしなければならない事も多く、いつでも自分の席にいるとは限らないから、本人がまだ所内にいるかどうかを、同室の人々に知らせる確実にスマートな約束だった。先年亡くなったその先輩は1911年の生まれだが、この風習は大学紛争が始まるころまで生きていたという。

いま私たちの勤務状況は、コンピューターの電源のオン・オフで掌握されている。なるほどコンピューターは現代の硯箱だな、と思うと同時に道具立ての変化の激しさに気付かされる。

いよいよこの秋から本学でも「ICカード職員証」が導入されることになった。

この職員証はコーポレートカード(法人決済ク



レジットカード)の機能を兼備するばかりでなく、図書館利用証、入退館証(一部の建物)、職員定期健康診断時のデータ処理、ポストペイ(後払い)方式による学内キャッシュレス・サービスでの活用も可能となる予定だそうである。さらにこのコーポレートカードにはさまざまなメリットがあって、私たちが国内で私的に利用した分については、カード会社の収益の一部が東京大学に対して還元され、大学経営にも資するところがあるのだそうである。

良い事尽くめのその書類を調べているちょうどその時に、アメリカ大手のクレジット会社から顧客情報が4千万件以上流出した可能性があるというニュースが伝わってきた。不正侵入されたのは2004年の遅い時期らしいが、それからすでに半年経過した時点で情報処理会社が気付いたらしく、今回の報道に我々が接しているのは、さらに一月近く経っている。

職務遂行に不可欠のメールが、毎日コンピューターウイルスの巧妙な手口に曝されていると、経験は無いのに硯箱の時代を懐かしく思う。いや次世代のコンピューターは、机の上の硯箱くらい安全に管理できるものになるのだろうか？

田中 博美 (史料編纂所)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務部広報課を通じて行ってください。

No. 1317 2005年7月13日

### 東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号  
東京大学総務部広報課 ☎ 03-3811-3393  
e-mail: kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp  
ホームページ [http://www.u-tokyo.ac.jp/index\\_j.html](http://www.u-tokyo.ac.jp/index_j.html)



東京大学  
THE UNIVERSITY OF TOKYO